

【全体の概要】

- 全体の正答率は、県平均を大きく上回っている。
- 到達度別平均正答率「十分達成」は県平均をやや上回っている。「おおむね達成」は県平均とほぼ同じである。
- 観点別正答率は、「話す・聞く」「読む」は県平均とほぼ同じである。「書く」「知識・理解・技能」は県平均を大きく上回っている。
- 無解答率が県平均より下回っている。

| | 分析の結果・本校の課題 | 改善に向けた具体的取り組み |
|-----------|--|---|
| 話すこと・聞くこと | <p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 友達の質問の仕方の善し悪しを吟味する力が弱い。 ● 発表会で聞いた事柄を基に、与えられた条件に合わせて自分の意見を述べることを苦手としている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「スピーチタイム」や「すくすくタイム」に、話し方のスキルを学ぶ活動を取り入れる。 ・国語科に限らず、話し合い活動の場を意図的に仕組み、その中で友達の考えを吟味し、意見を1つにまとめたり、絞ったりする活動を通して、考えを取捨選択させる経験を多く取り入れる。 |
| 書くこと | <p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 語彙の習得が十分でないため、字数が制限された中で、正答を考え出すことができない。 ● 見学依頼の日程と相手の都合を尋ねる問題に、条件に合わせて書くことができない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字数指定や書き出し指定、キーワード指定など、いろいろな条件付き作文に慣れさせていく。 ・文章構成のパターンを示し、自分の考えを文章に書き表す活動を取り入れていく。 ・意味調べを多く取り入れ、語彙を増やす活動を取り入れる。 |
| 読むこと | <p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語文において、話のおもしろかったところを友達に紹介する際に、条件に合わせて、考えを説明することを苦手としている。 ● 物語の情景にあった言葉を吟味し、選び出す力が弱い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「読書タイム」を活用しながら、読書を推進し、いろいろなジャンルの文章に慣れさせていく。 ・内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりする活動を多く取り入れていく。 ・「すくすくタイム」の中で、多くの文章に触れ、問題を解く機会を増やす。 |
| 知識・理解・技能 | <p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 慣用句が弱い。 ● ローマ字の問題まで、到達しておらず、無解答の児童が多くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際、既習の漢字をできるだけ使って書くように指導していく。 ・これまで通り、家庭学習として、漢字の書き取りに取り組みさせていく。 ・慣用句や修飾語など、文法の学習も定期的に取り入れ、家庭学習等で取り組ませる。 |

【全体の概要】

- 全体の正答率は、県平均を大きく上回っている。
- 到達度別平均正答率「おおむね達成」「十分達成」はいずれも県平均を大きく上回っている。
- 観点別正答率は、県平均と比べ「数学的な考え方」はやや上回り、「技能」「知識・理解」は大きく上回っている。
- 無解答者はいない。

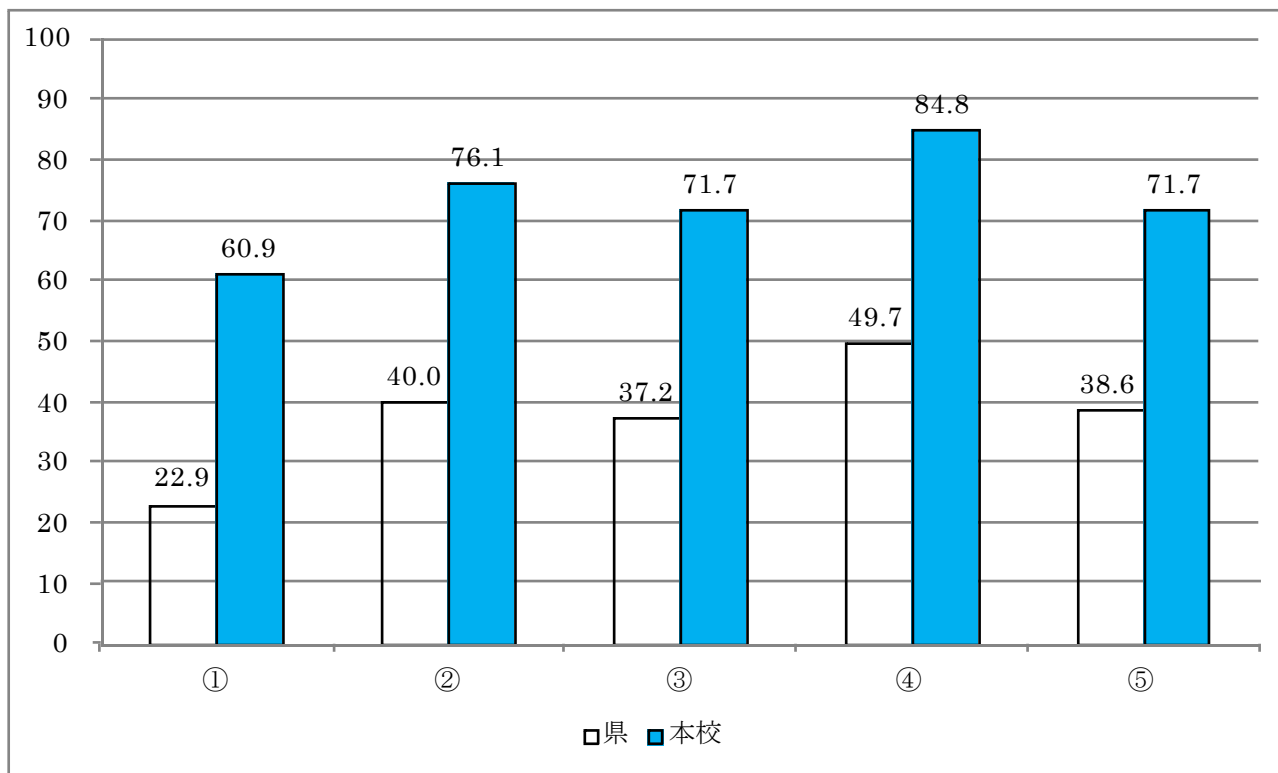
| | 分析の結果・本校の課題 | 改善に向けた具体的取り組み |
|--------------|--|---|
| 数学的な考え方 | <p>正答率は県平均をやや上回っている。</p> <p>○複合図形の面積を求める問題の正答率がとても高かった。</p> <p>●計算のきまり(分配法則)の問題の正答率が低かった。</p> <p>●二つの数の関係を式に表す問題の正答率がやや低かった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・計算のきまりは5・6年だけでなく中学数学にもつながるものであり、その都度方法だけでなく、活用できるように繰り返し指導していく。 ・文章問題の題意を読み取れずに、間違えている児童が多いので、問題に取り組む際に、印をつけて読み解くように指導する。 |
| 数量や図形についての技能 | <p>正答率は県平均を大きく上回っている。</p> <p>○小数を含む数の大小を比較する問題の正答率がとても高かった。</p> <p>●小数の加法計算の習熟が十分ではない。</p> <p>●工夫した計算の仕方の習熟が十分でない。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算技能(特に小数の加減乗除)の確実な定着を図るために、繰り返し練習の機会を設ける。 |
| 数量や図形の知識理解 | <p>正答率は県平均を大きく上回っている。</p> <p>○平行四辺形のもう一つの頂点を選ぶ問題の正答率がとても高かった。</p> <p>●1/100の位の数字を求める問題の正答率がやや低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・算数用語の意味をしっかりと理解できるように、授業の中で意識して使用していく。 ・どの単元においても、知識を定着させるために定期的に復習を取り入れていく。 |

平成27年度県学力学習調査結果分析・対策 **5年**

〔意識調査〕

【数値が特に高かった項目】

| | |
|---|--|
| ① | 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 * 「当てはまる」と答えた児童の割合 |
| ② | 国語の授業の内容はよく分かる。 * 「当てはまる」と答えた児童の割合 |
| ③ | 理科の授業で、自分で考えたことを図や文字で表したり、友達と話し合ったりしている。 * 「当てはまる」と答えた児童の割合 |
| ④ | 学校に行くのは楽しいと思う。 * 「当てはまる」と答えた児童の割合 |
| ⑤ | 社会の授業の内容はよく分かる。 * 「当てはまる」と答えた児童の割合 |

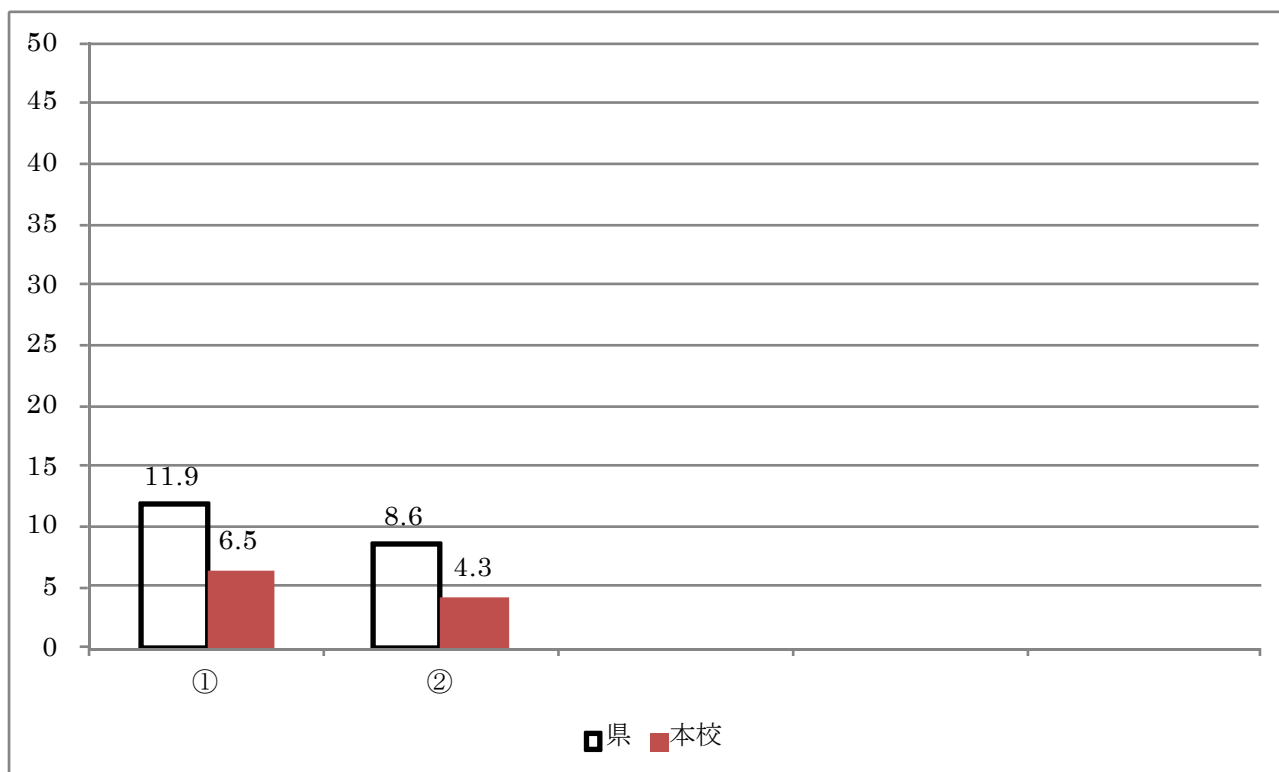


分析と今後の取り組み

- ・校内研でコミュニケーション活動を取り入れているため、友達に自分の考えを伝えることに慣れ、話すことに抵抗が少なくなっていると思われる。(①)
- ・学習のめあてを理解し、目的をもって学習活動に取り組んでいる。そのため、学習内容を理解している児童が多いといえる。(②⑤)
- ・なかよしタイムでの異学年交流や、リーダーとして下級生をひっぱっていく活動を行っている。そのため、一人一人の活躍や承認の場が与えられ、楽しいと思う児童が多いといえる。(④)
- ・多くの教科でコミュニケーション活動を取り入れた学習をしていることが、理科でも生かされていると思われる。(③)

【数値が特に低かった項目】

| | |
|---|---|
| ① | <p>昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）</p> <p>* 「だいたい週に4回以上行く」と答えた児童の割合</p> |
| ② | <p>学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）</p> <p>* 「2時間以上」と答えた児童の割合</p> |



分析と今後の取り組み

- ・ 「だいたい週に4回以上行く」は県平均より5.4ポイント低かったが、「週に1～3回程度行く」は県平均より16.7ポイント高かった。これは、昼休みや放課後に委員会活動などで役割を与えられているため図書室に行く時間がないためと考えられる。しかし、半数の児童は週に1回は行っていると考えられる。少しの時間でも見つけて本を借りに行くように声かけをし、読書意欲を高めるようにしていきたい。(①②)
- ・ 「読書は好きだ。」という質問に対する結果は、県平均とほぼ同じであった。読書への関心を高めるために、図書委員会が主催するイベントや読み聞かせをきっかけに、興味を持たせたい。